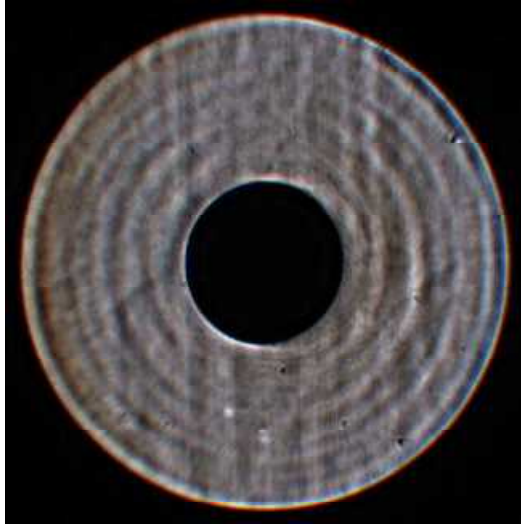


だんだん光学系で ここまで写る! ~だい2 だん~

セレストロン C14 による惑星撮影

図1、[セレストロンC14 (口径35cm) の恒星像ナイフエッジテスト]



熊森照明 (大阪府堺市)

○はじめに

図1の恒星像ナイフエッジテスト像を見ると分かるように、C14の光学面はステップだらけの段々です。

このだんだん光学系でどこまで惑星の高解像画像が得られるのか、C14の改造とともにこの一年で学習したことを報告いたします。

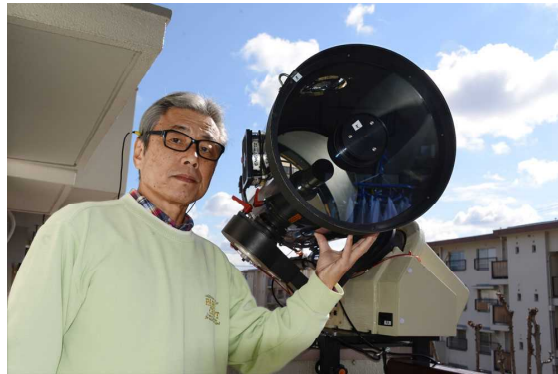


図2、[ベランダ設置のC14と記念写真]

この一年で学習したことを報告いたします。



図3、[φ12cmファン2個を吸気用として設置]



図4、[φ8cmファン3個を排気用として設置]

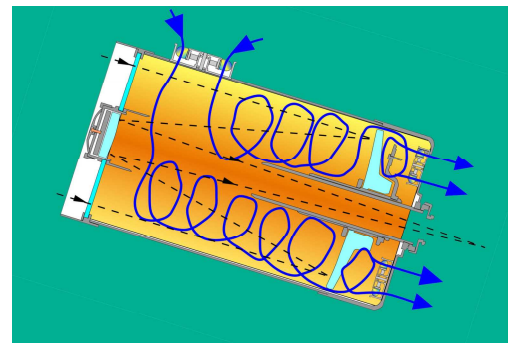


図5、[電動ファンによるC14鏡筒内の空気の流れ]

○主な改造

シュミットカセグレンは、補正板で蓋をされた閉鎖空間であり、一番の熱源である主鏡の温度降下は外気温よりも何時も遅れ、筒内気流を発生させます。改造は鏡筒に吸気ファンと排気ファンを取り付け(図3、4、5)、鏡筒内に空気の流れを作り、筒内気流防止対策することにあります。



図6、土星 2016年5月18日撮影



図7、木星 2017年1月18日撮影